

富山県都市計画課街路係 技師 森井 翔吾

●都市計画に関連する諸施策に取り組む先進地の視察を通じて見識を高め、県内各自治体のまちづくりに活かすことを目的として、令和6年10月23～25日に、15名（市町村職員12名、県職員3名）で熊本県（熊本市、菊陽町）を視察しましたので報告します。

まちなか再生プロジェクト、桜町・花畑周辺地区のまちづくり（熊本市）

中心市街地の拠点性と回遊性の向上に向けた公共交通と連携したコンパクトシティを形成



桜町再開発ビル



花畑広場

液状化被害からの復旧・復興について（熊本市）

平成28年熊本地震により市内各地で発生した液状化被害からの復旧



事業説明（現場事務所にて）



事業説明（集水ポンプ施設）

熊本駅周辺整備事業（熊本市）

土地区画整理事業による駅前広場整備
新幹線整備事業及び連続立体交差事業による駅舎の整備



熊本駅東口広場



事業説明（熊本駅西口広場にて）

産業立地を踏まえたまちづくり（菊陽町）

「成長しつづける町」をスローガンに農・工・商・住の均衡あるまちづくりを推進



事業説明（菊陽町役場にて）



半導体整備工場

呉羽丘陵フットパス連絡橋及び周辺整備について

富山市建設部公園緑地課

1. 呉羽丘陵フットパス

「呉羽丘陵フットパス」は、富山を東西に二分する呉羽丘陵の尾根に沿って設けられた自然歩道で、里山の自然の豊かさや、古墳などの歴史遺産、雄大な立山連峰の眺望などを楽しむことができます。一方で、県道富山高岡線によって呉羽山公園と城山公園に分断され、散策ルートの連続性の確保が長年の課題となっていました。

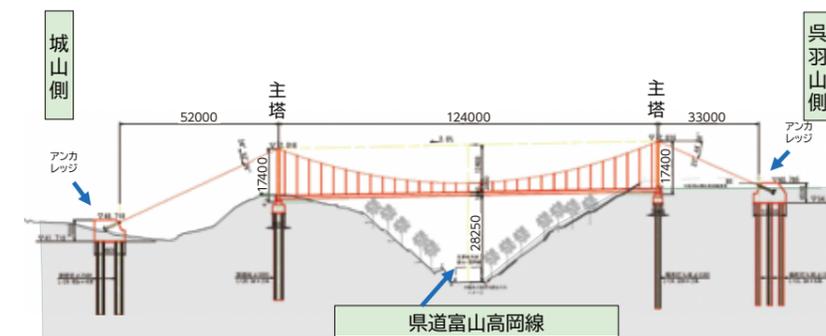


呉羽丘陵フットパス（尾根散策コース）全体図

2. 呉羽丘陵フットパス連絡橋

「呉羽丘陵フットパス連絡橋」は、県道富山高岡線によって分断された呉羽山公園と城山公園を繋ぎ、呉羽丘陵フットパスの連続性・回遊性を高めるとともに、橋からは立山連峰をはじめとした壮大な景色を楽しむことができます。

中心市街地からのアクセスも容易で、観光地としてのポテンシャルも高い呉羽丘陵のコアエリアであることから、シンボル性の高い吊橋形式を採用し、令和2年度に着工、令和5年度に完成しました。



呉羽丘陵フットパス連絡橋 側面図

- ◆橋梁形式：単径間補剛吊橋（歩道橋）
- ◆桁下高：約28m
- ◆幅員：有効幅員1.8m（全幅員3.5m）
- ◆主塔高さ：17.4m
- ◆主塔間隔：124m

3. 呉羽丘陵フットパス連絡橋周辺整備

連絡橋の城山公園側においては、既存のフットパスから連絡橋へアクセスする園路の整備を市が行い、呉羽山公園側の富山観光ホテル跡地においては、民間のノウハウを活用したPark-PFIの導入により、眺望を活かした賑わい施設（飲食・多目的ホール等）と園路・広場を整備し、連絡橋と一体利用できる、呉羽丘陵の新たな拠点の形成を図ることとし、令和8年度上半期の供用開始を目指しています。



呉羽山公園・連絡橋周辺広場 イメージパース

県立都市公園におけるPark-PFIについて

富山県都市計画課公園緑地係

県では、令和3年度から公募設置管理制度（Park-PFI）を活用し、太閤山ランド、五福公園、常願寺川公園の3つの都市公園において、魅力向上や民間のノウハウを取り入れた公園整備に取り組んでいます。

太閤山ランドでは、北陸エリアとして初となる池越えジップラインをはじめ、樹上アスレチックやドッグラン、四季彩るローズガーデンなどを備えた「アドベンチャーガーデン射水」を整備しました。

五福公園では、子どもからシニアまで、快適な憩いの場を提供するため飲食店（カフェ）や駐車場、芝生広場などを整備しました。

常願寺川公園では、ファミリーやグループが手ぶらで気軽にバーベキューを楽しめるエリアをリニューアルするとともに、老朽化したベンチを撤去し、自然の中でゆっくり休息できるデッキを新たに設置するなど、令和7年夏頃のオープンに向けて整備を進めております。

今後も、皆さまに愛される都市公園づくりを目指して魅力向上に取り組んでまいります。

●太閤山ランド「アドベンチャーガーデン射水」●



ジップライン



樹上アスレチック



ドッグラン



ローズガーデン

●五福公園「飲食店（カフェ）」●



飲食店（カフェ）



飲食店（カフェ）



芝生広場



駐車場

●常願寺川公園「バーベキューエリア」●



イメージ図

バーベキューエリア



イメージ図

グリーンデッキ